

開催要項

八尾市東部の高安地域には、中河内最大の前方後円墳である心合寺山古墳や大阪府下最大級の石室をもつ愛宕塚古墳、「河内の四大群集墳」のひとつにかぞえられる高安千塚古墳群など、4世紀から7世紀にかけて数多くの古墳が築かれました。大正時代の調査では、640基あまりの古墳が確認され、現在も200基以上が残っています。

これらの古墳からは貴重な遺物が多くみつかっています。江戸時代には高安の千塚として広く知られ、掘り出された勾玉や土器などは、好古家たちの賞玩的となりました。明治以降も発掘によって、後に重要美術品の認定を受ける装飾付須恵器や銅鏡などが出土しました。

令和7年は心合寺山古墳の史跡整備完了20周年と高安千塚古墳群の国史跡指定10周年の節目にあたります。本展ではこれまでの郷土史研究や発掘調査の成果として高安地域の主な古墳とその出土遺物を紹介します。装飾豊かな武具や馬具、玉類や耳環といった装身具、さまざまな形の土器や埴輪など多彩な考古資料をとおして、高安の古墳文化にふれていただく機会となれば幸いです。



古物画譜 (パネル展示・天理図書館蔵)

第1章

古墳をめぐる好古と考古

江戸時代、高安地域の群集墳は「千塚」として『河内名所図会』に描かれ、須恵器や勾玉などが掘り出されていました。出土品は、古物を愛好する好古家たちの手にわたり、遠く江戸まで運ばれています。

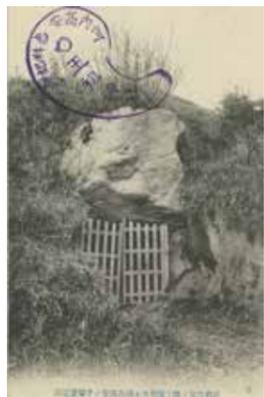
明治時代になると、海外から招かれた技術者（お雇い外国人）たちが古墳の調査に訪れ、日本の近代考古学の草創期に、測量図や写真などの貴重な記録を残しました。そのうち、八尾の郷土史家たちの活躍によって、高安地域の古墳の全容が次第に明らかになっていきました。



河内名所図会「千塚」(館蔵)



八尾市古墳台帳 (館蔵)



絵葉書「古代穴居ノ跡ト伝称スル河内高安ノ千塚愛宕山」(個人蔵)



土手山古墳出土 鉄地金銅張杏葉 (泉福寺蔵)



神立地区出土 須恵器 器台 (泉福寺蔵)

第2章

王たちの古墳－地域首長墓の造営－

高安地域には古墳時代をとおして、前方後円墳など地域を支配した有力者の古墳がつくられました。なかでも、心合寺山古墳は中河内地域最大規模の前方後円墳で、三葉環頭大刀や導水施設形埴輪などが出土しています。また、大阪府下最大級の石室をもつ円墳、愛宕塚古墳からは、振り環頭大刀をはじめ多様な武器や馬具などが出土しました。



郡川東塚古墳出土 画文帯神獸鏡 (個人蔵)



鏡塚古墳出土 石櫃蓋 (大阪府立八尾高等学校蔵)



郡川墓尻出土 玉類 (個人蔵)



花岡山古墳出土 円筒埴輪 (大阪府立八尾高等学校蔵)



心合寺山古墳出土 甲冑 (館蔵)



心合寺山古墳出土 三葉環頭大刀 (館蔵)
撮影：京都国立博物館

第3章

山麓に築かれた群集墳－高安の千塚－

古墳時代後期（6世紀）になると、高安地域の山麓に横穴式石室の円墳が数多くつくられます。とくに、高安千塚古墳群の範囲（大窪・山畑・服部川・郡川）には、200基以上の円墳が分布し、約半数が国史跡に指定されました。

また、近代の開墾によって山麓の古墳から出土した大刀、須恵器、馬具などが、今も旧家や社寺で大切に守り伝えられています。



郡川地区出土 須恵器 器台 (個人蔵)



森田山古墳出土 須恵器 (泉福寺蔵)



芝塚古墳出土 銀象嵌刀装具 (館蔵)



森田山古墳出土 金銅装圭頭大刀 (館蔵)



服部川地区出土 馬鐙 (個人蔵)



長者の塚塚古墳出土 須恵器 装飾付子持器台 (大阪城天守閣蔵)